

2014年9月30日

日本共産党都議団長 吉田信夫殿

『景観モニタージュ写真の疑問点について』に関する回答書

独立行政法人 日本スポーツ振興センター
新国立競技場設置本部長 山崎 雅男

8月27日に貴殿に提出したモニタージュ写真のうち、「A-1」、「A-11」は、外苑西通り沿いにおいて、本計画施設の景観上の考え方を示す上で現況からの眺望の変化を把握するために作成したものです。

これらのモニタージュ写真は、下記に示す方法で作成しましたが、今回のご意見を受けて、参考として当方でも街路灯や信号機の高さを測定し、シミュレーションを行っているところですので、ご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

記

■A-1について

【モニタージュの作成方法】

このモニタージュ写真は以下の方法で作成しています。

- ① A-1の地点で撮影した写真（以下「元写真」という。）から、周辺地図データ上で視点位置と向きを設定。
- ② 上記設定位置と同じ地点と向きから見た「新国立競技場のCGモデル」（以下「モデル」という。）を作成。このとき市販されている地図（ゼンリンの白地図）にある周辺道路の位置データ（歩車道境界線等）も併せて入力。
- ③ 透視図法で目線レベルの高さを「元写真」上に設定し、その設定ライン上に、作成した「モデル」の視点レベルを合わせて「モデル」を合成。
また②で入力された道路データと「元写真」上の歩道等の位置が概ね整合する位置で「モデル」の左右位置を調整。

■A-11について

【モニタージュの作成方法】

このモニタージュ写真は以下の方法で作成しています。

- ① A-11の地点で撮影した写真（以下「元写真」という。）から、周辺地図データ上で視点位置と向きを設定。
- ② 上記設定位置と同じ地点と向きから見た「新国立競技場のCGモデル」（以下「モデル」という。）を作成。このとき測量図データ※（測量者：㈱八州）にある周辺道路の位置データ（歩車道境界線や横断歩道等の路面標示）も併せて入力
※モニタージュ作成時点では測量調査が完了していたためそのデータを使用
- ③ 透視図法で目線レベルの高さを、「元写真」上に設定し、その設定ライン上に、作成した「モデル」の視点レベルを合わせて「モデル」を合成。
また②で入力された道路データのうち手前に写る横断歩道のデータと「元写真」上の横断歩道の表示位置が概ね整合する位置で合成した。

景観シミュレーション

A-1 外苑西通り



現状



新国立競技場を入れた予想図

※現時点での計画であり、今後の検討により
変更となる可能性があります。

A-11 観音橋交差点



現状



新国立競技場を入れた予想図

※現時点での計画であり、今後の検討により
変更となる可能性があります。